



TITLE:

<Book Review>McVey, Ruth (ed.),
Indonesia. Sontheast Asia Studies,
Yale University (By arrangement
with Hraf Press), 1963,pp.471

AUTHOR(S):

口羽, 益生

CITATION:

口羽, 益生. <Book Review>McVey, Ruth (ed.), Indonesia. Sontheast Asia Studies, Yale University (By arrangement with Hraf Press), 1963,pp.471. 東南アジア研究 1964, 1(3): 102-102

ISSUE DATE:

1964

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/54834>

RIGHT:

四項を加え、タイ正月 Songkran がビルマの正月 Thingyan を語源としている等文化交渉の資料を豊富に与え、類書の少ないこの方面にあって甚だ便利な概論として一読をすすめたい好著である。

(工藤成樹)

McVey, Ruth (ed.): Indonesia. Southeast Asia Studies, Yale University (By arrangement with Hraf Press). 1963. pp. 471

本書は、Human Relations Area FilesのSurvey of World Cultures シリーズの一冊であるが、インドネシアについて、同シリーズから出版された旧版(全三巻)の内容とは、かなり趣をことにしている。旧初版は、1956年に、Stephen W. Reed によって編集され、1959年には、John Cookson などにより改訂されている。いずれも限定版であり、内容も百科全書的で、貴重な資料を含んではいるが、現代インドネシアの複雑な諸問題を理解するためには、欠ける所が多い。しかし、本書は、問題重点的にインドネシア全体の分析概観を試みている諸論文によって構成されている。執筆者も地理学の Karl J. Pelzer. 人類学の Hildred Geertz, 華僑研究の G. William Skinner, 経済史の Douglas S. Paauw, 労働問題の Everet D. Hawkins, 歴史の Robert van Niel, 政治史の Herbert Feith, 文学の Anthony H. Johns, 芸術の Mantle Hood と、夫々の分野の専門家が担当しているほか、本書の内容に関するコンサルタントを見ても、Henry J. Benda, John M. Echols, Clifford Geertz, Benjamin Higgins, Claire Holt, George McT. Kahin, J. D. Legge, Daniel S. Lev など、アメリカの現代インドネシア研究の総力を結集した観さえある。

若干の論文の内容を紹介してみよう。Pelzer の自然・人的資源に関する論文は、気象と植物資源の関係、鉱物資源の分布、貯蔵量や人口の増加、移動、分布について論じ、中でも前世紀の人口増加は、衛生状態の改善によるよりも、人口調査技術の発達によるとの指摘は、興味深い。Geertz の文化についての論文にも、インドネシア全体を統一的に概観する努力が見られ、特に文化の地域的、階層的な違いを、大都市の metropolitan super culture と新中産層や農民の文化の対比において、統一的に理解しようとする試み

は、インドネシア社会全体の基礎構造を理解する上に、有益な方法と考えられる。Skinner の華僑に関する論文で注目されるのは、華僑分布の概数であろう。この問題には、土着文化への華僑の同化の程度が当然ひっかかる。同化の程度と内外の政情変化にともなう華僑の政治志向との関連の分析も、示唆する点が少ない。農業については、Pelzer が執筆しているが、新しい資料にもとづき、農地と農産物、人口と土地所有の問題などが取り上げられ、未だ重要な経済活動であるインドネシアの農業の発展のためには、政府による組織的、科学的技術の導入が必要であると、Pelzer は主張する。Paauw は、植民地経済体制から「指導された経済体制」(Ekonomi Terpimpin)までの推移過程を多角的に論じ、Hawkins は、民族主義運動の指導期より重要な役割を演じた労働組織にまつわる諸問題を論じ、労働組織は、比較的安定しているものの、労働意欲の低いことが、今後の問題の一つとなるであろうことを指摘している。

いずれも、現代インドネシアを理解する上に有益な力作ばかりである。
(口羽益生)

Geertz, Clifford: Peddlers and Princes, Social Change and Economic Modernization in Two Indonesian Towns. The University of Chicago Press, Chicago and London. 1963. pp. 157

伝統社会から、経済が比較的優位を占める近代社会への移行過程が、抽象レベルの高い二分法(伝統主義対合理主義など)によって理解される時、屢々伝統社会内部の特殊性は無視され勝ちである。しかし、伝統社会の内容は、必ずしも一様ではない。「伝統」から「近代」への変容過程は、「伝統」の在り方によって成り異なっている。この事実を視角を合せて、Geertz は、本書で、東部ジャワの Modjokuto (仮名) 町とバリ島南西の Tabanan 町を比較する。夫々の町の特徴を巧みに浮き彫りにした鮮かな筆致による比較叙述の仕方も大いに参考になるが、一国の経済発展の理解のために、特定地域の集約的研究は、どのような方法で貢献し、又どのような点に着眼すべきかなどに関する彼の卓見は、同様の問題に関心を持つ者にとって、極めて有益である。

Modjokuto に関する Geertz の秀れた諸研究は、